

平成二十五年度 卒業論文

女子大生の食生活満足度
—下宿生と自宅生の比較—

奈良女子大学 生活環境学部 生活文化学科
安藤ゼミ 10461533 藤井幹子

問題

表1 年齢別及び単身世帯の朝食の欠食率(2008)

厚生労働省「国民健康・栄養調査」を基に農林水産省で作成

	総数	全体	単身世帯
総数	10.7	11.6	17.5
1～6歳	4.5		
7～14	3.2		
15～19	14.7		
20～29	28.3	28.3	49.4
30～39	20.8	20.8	41.4
40～49	13	13	33.3
50～59	9.9	9.9	21.2
60～69	5.5	5.5	9.1
70歳以上	2.8	2.8	4.5

目的

以下、2点において検証する。

居住形態(自宅か下宿か)の違いにより

◆ **食生活満足度に差が生じるのか**

下宿生において

◆ **性別役割意識が高く、自炊頻度が高い人は
食生活満足度高いのか**

方法(質問紙調査)

- 調査日

2013年7月12日

- 対象者

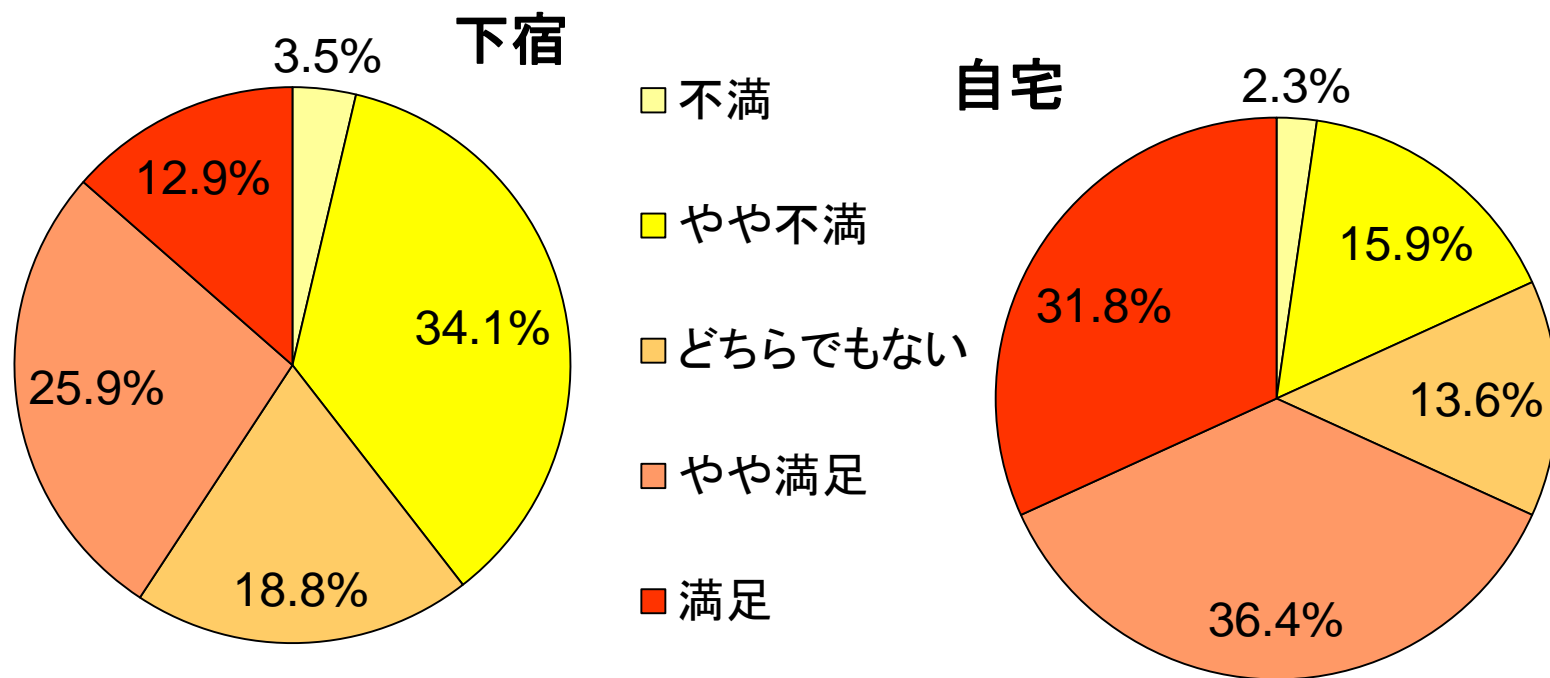
奈良女子大学・大学院の講義に出席している学生

- 回収率

202部(92.2%)

結果① 居住形態による食生活満足度の差

- 女子大生の食生活満足度の比率

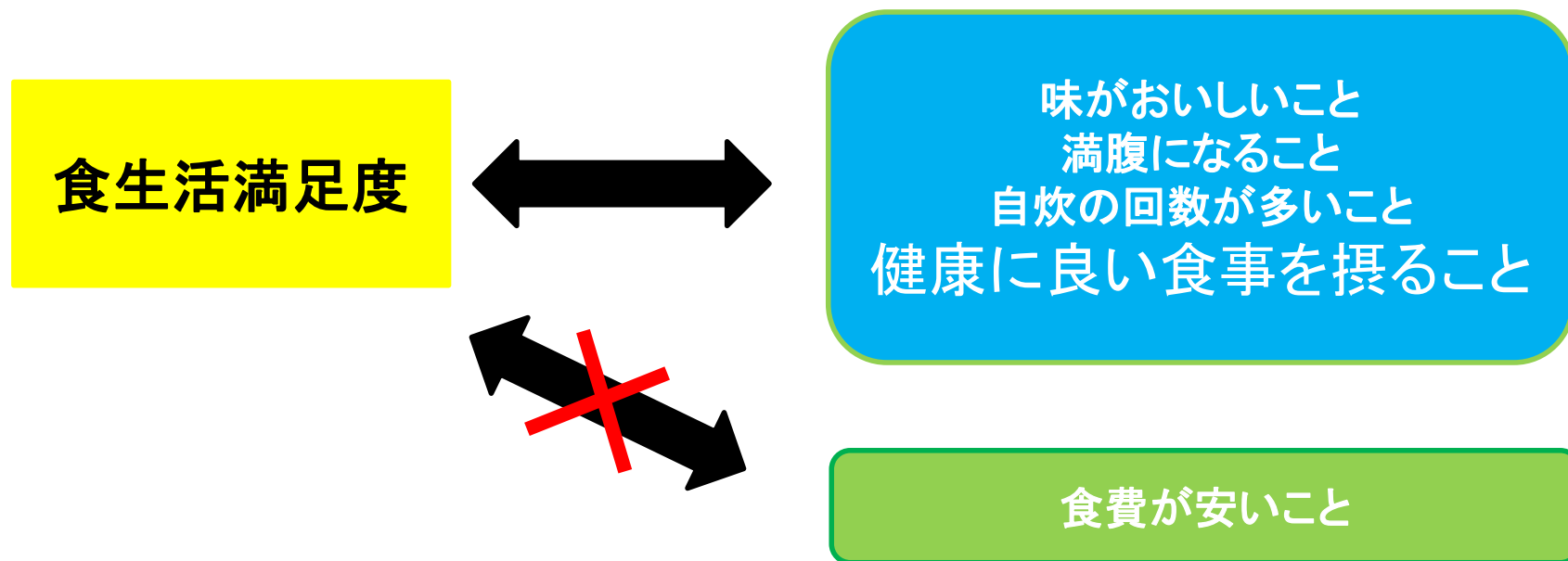


結果②下宿生・食生活満足度と個別の側面

下宿生において

食生活満足度と個別の側面に対する満足度との相関分析

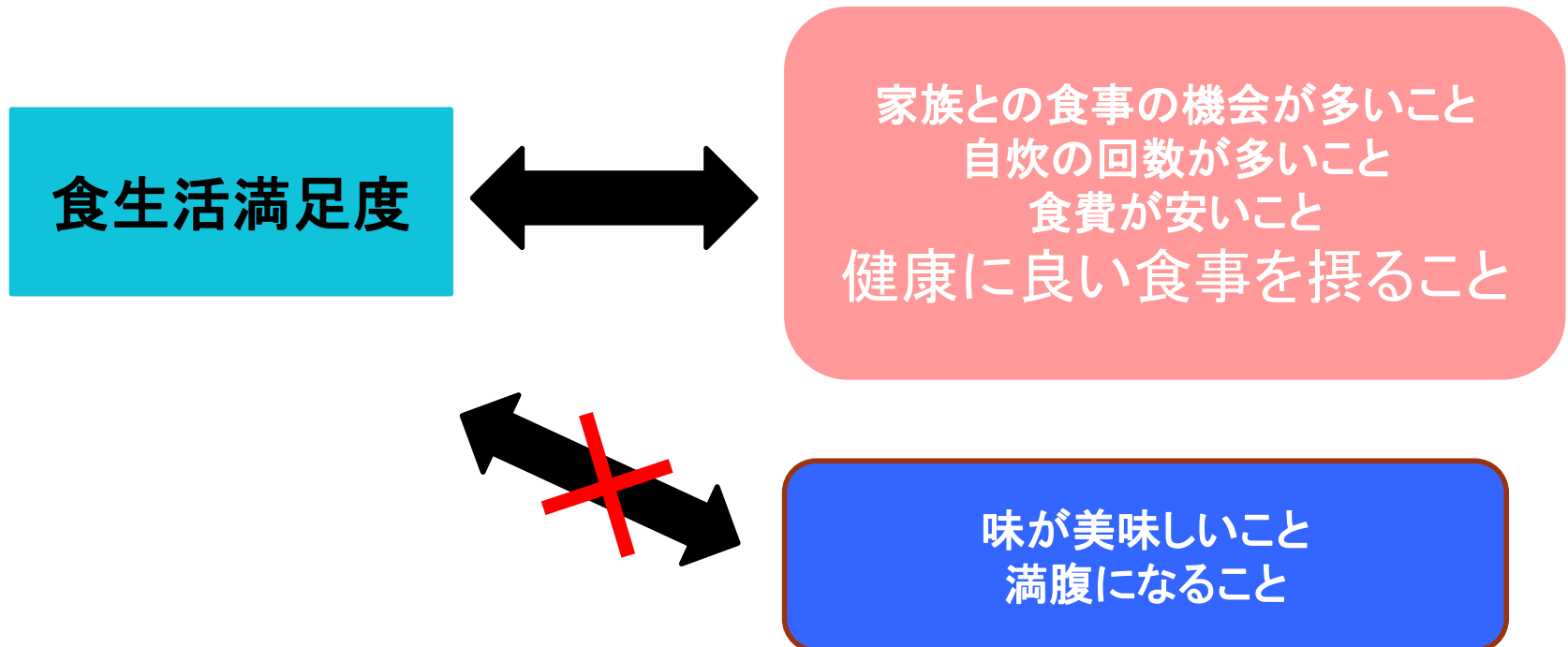
その結果、食生活満足度と関連の強かった変数は、



結果③ 自宅生・食生活満足度と個別の側面

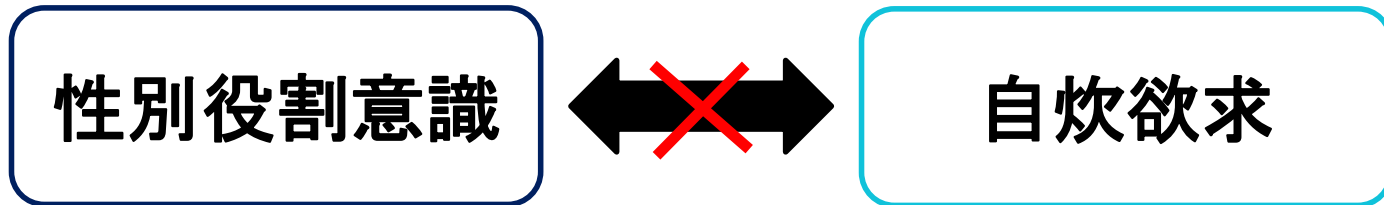
自宅生において

食生活満足度と個別の側面に対する満足度との相関分析
その結果、食生活満足度と関連の強かった変数は、



結果④性別役割意識と自炊意識

一人暮らしの女子大生がもつ性別役割意識と自炊欲求において相関分析を行った。



結果④自炊欲求と自炊頻度

性別役割意識の高い人

自炊欲求の高い人



自炊頻度が高い人



食生活満足度に差はない



…自炊をしたという意識が低ければ、自炊頻度が多くても食生活に満足していない!!!

考察

- 下宿生において、
性別役割意識と自炊意識に関係はない

・・・料理ができた方が良い

- 自宅生の方が、下宿生よりも食生活に満足している

・・・栄養バランス、経済面、楽しさ

ご清聴ありがとうございました。

Thank you

